

外国語活動とプログラミング

私の現在の職は、学校訪問の機会が大変少ない。

そんな中、先日、学校訪問に同伴した。

昨年11月以来、10ヶ月ぶりの訪問であり、地域の小学校ボランティア活動（夏休み）以外、これほど学校と離れたことは就職後初めてのことである。自分のことだが、あきれ、驚いた。

さて、この訪問で、小学校6年生の外国語活動の授業を見ることができた。

若手の男性の先生が、オールイングリッシュで授業を行っていた。

元気な声、大きなジェスチャー、笑顔、少々つまっても間違ってもがんばる姿、これを見て児童も元気に笑顔で発話している。

授業の途中で、「先生、さすが！」という声が児童から出ていたところもすごい！

この学校には、英語推進リーダーがいるが、リーダーの後輩の男性がこれだけの水準の授業であり、他にも若手のやる気満々が先生方がそろっているのも、学校全体での、外国語活動の水準は相当高いものと思われる。

若手が多いこの業界、諸課題も意外とうまく解決できるのかもしれない。

本題に入る。

本時は、よくある授業だと思われるが、「Go straight ,Tern right」を行っていた。

地図やデジタル教材を用いての対話があった。

この授業を見ていて、外国語活動の授業の楽しさを感じながら、プログラミング体験のことが頭をよぎった。

皆さん、もうお分かりだろう。

「Go straight ,Tern right」はまさにプログラミングである。

教室の床を地図にして、現在地と駅や学校など目的地を定め、どのような道順で目的地まで案内すればよいか思考させ、英語で案内するのである。

ここでは、

at next signal 、 crossing 、 corner

などを積極的に盛り込むことも行えばよい。

プログラミング教育は、思考力を育成するもので、様々な教科で行うことができ、評価はその教科で行うのである。この英語活動で、英語の学びを行うなかで、自然とプログラミング思考が身についていることとなるのである。

ましてや、中学校の情報や小学校のプログラミング体験でコマンドを入力するときにも、英語でプログラミング体験を経験したことは役に立つともう。

いろいろなところで外国語教育やプログラミング教育のネタがありそうだ。

自分は、授業を行うことはできないが、なんだか楽しくなってきた。

若い先生の奇抜なアイデアに期待する。